

- 問1 環境負荷を減らすための取り組みのうち、プラスチック製のストローの使用を抑えることで「廃棄物の発生そのものを抑制する」ことと、使用済みのペットボトルを分別回収して「新たな製品の原料として再利用する」ことを指す用語の組み合わせとして、最も適切なものはどれですか。（2020年 香川県公立入試 類似）
1. 前者がリサイクル、後者がリユース
  2. 前者がリユース、後者がリデュース
  3. 前者がリデュース、後者がリサイクル
  4. 前者がリデュース、後者がリユース
- 問2 不要になった電子機器から金などの資源を取り出す「リサイクル」の取り組みに関連して、日本の資源問題や環境対策の説明として正しいものはどれですか。（2023年 滋賀県公立入試 類似）
1. 小型家電からの資源回収はコストがかかりすぎるため、現在はすべて一般ごみとして焼却処分することが推奨されている。
  2. 資源の不足を解消するため、古い電子機器はすべて海外へ輸出し、現地で埋め立て処分することが法律で義務付けられている。
  3. 携帯電話などの小型家電には多くの有用な金属が含まれており、これらを再利用することで資源の有効活用が進められている。
  4. 金やレアメタルは自然界で無限に生成されるため、リサイクルよりも安価な海外からの輸入を拡大し続けることが推奨されている。
- 問3 国際貿易における「フェアトレード」が重視される背景として、現在の世界が抱える課題を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2024年 神奈川県公立入試 類似）
1. 先進国の企業による安価な買い叩きが、途上国における児童労働や貧困の固定化を招いていること
  2. 自然環境の保全を目的として、観光客を制限しながら地域の魅力を伝える必要があること
  3. 低所得者が無担保で小口の融資を受けられる金融システムが不足していること
  4. 特定の農産物の輸出に依存しすぎて、国際価格の変動により国の経済が不安定になること
- 問4 1960年代から2010年代にかけての大気汚染物質の濃度と、都内から富士山が見えた日数の記録を分析すると、1970年代に二酸化硫黄の濃度が急激に低下し、1990年代後半には極めて低い水準で安定していることがわかります。これと同時期に富士山が見える日数が増加傾向にある理由として、最も適切なものはどれですか。（2022年 東京都公立入試 類似）
1. 二酸化炭素の排出量が増加し、地球温暖化によって空気が乾燥したため
  2. 高度経済成長期の進展により、重化学工業の工場が都心部に集中したため
  3. 石油危機の発生により、工場の操業が完全に停止し大気汚染がなくなったため
  4. 公害対策基本法の制定や排出規制などの法整備により、大気環境の改善が進んだため
- 問5 循環型社会を形成するための取り組みである3R（スリーアール）のうち、製品の製造や輸送の段階で、使う資源の量を抑えたり、ごみとなるものを減らしたりすることで、廃棄物の発生そのものを抑制する取り組みを何といいますか。（2018年 群馬県公立入試 類似）
1. リユース
  2. リデュース
  3. リカバー
  4. リサイクル
- 問6 開発途上国で作られたコーヒーやカカオなどの原料や製品を、一時的な援助ではなく、適正な価格で継続的に購入する取り組みを何といいますか。現地の生産者の生活改善や自立を支援し、国際貢献につながる仕組みの名称を答えなさい。（2018年 熊本県公立入試 類似）
1. 保護貿易
  2. フェアトレード（公正な貿易）
  3. 垂直分業
  4. 自由貿易
- 問7 持続可能な社会の実現に向けた取り組みの背景にある考え方について、説明として正しいものはどれですか。（2019年 奈良県公立入試 類似）
1. 地球温暖化を完全に防ぐために、現代の利便性をすべて放棄して、産業革命以前の自然環境に戻すことを目指す考え方
  2. 資源の枯渇を避けるため、人口が急増している特定の地域の経済成長のみを厳しく制限する考え方
  3. 現代の生活の質を維持するためであれば、将来の世代が使うはずの資源を一時的に消費し尽くしてもよいとする考え方
  4. 将来の世代の幸福と、現代の生活の質の維持・向上の両立を目指す考え方
- 問8 循環型社会形成推進基本法において定められている、廃棄物などの処理に関する優先順位として、最も優先されるべき行動はどれですか。（2018年 兵庫県公立入試 類似）
1. どうしても再利用できない廃棄物を燃やし、その熱をエネルギーとして利用する「熱回収」
  2. 使用済みの部品やボトルをそのままの形で使い直す「リユース」
  3. 製品の製造過程でゴミの発生を抑える「リデュース」
  4. 廃棄物を一度資源に戻してから、新たな製品の材料にする「リサイクル」
- 問9 発展途上国で生産されたコーヒーやカカオなどの農産物は、国際的な価格変動や不利な取引条件により、生産者が十分な利益を得られず貧困から抜け出せない原因となることがあります。こうした課題を解決するために、消費者の立場から、生産者が生活を維持し自立できるよう、農産物や製品を適正な価格で継続的に買い取る取り組みを何といいますか。（2019年 秋田県公立入試 類似）
1. セーフティネット
  2. モノカルチャー
  3. バイオマス
  4. フェアトレード（公正取引）
- 問10 2015年の国際連合総会で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」は、深刻化する地球規模の課題を解決し、持続可能な社会を実現することを目的としています。この目標が達成の期限として掲げている年はいつですか。（2024年 新潟県公立入試 類似）
1. 2050年
  2. 2045年
  3. 2030年
  4. 2025年
- 問11 「循環型社会形成推進基本法」で示されている、資源を効率的に循環させ環境負荷を減らすための優先順位として、最も適切な説明を次の中から選びなさい。（2021年 島根県公立入試 類似）
1. 環境権を憲法に明記することを最優先し、国民が裁判を通じて良好な環境を求める権利を保障する。
  2. 再生利用（リサイクル）を最優先し、最新の技術を用いてすべての廃棄物を工業原料として活用する。
  3. 廃棄物の発生抑制（リデュース）を最優先し、次に再使用（リユース）、その次に再生利用（リサイクル）を行う。
  4. 公害の原因となる物質の排出規制を最優先し、違反した企業に対して罰則を科すことで環境を保全する。
- 問12 2005年に発効した京都議定書において、削減の対象とされた「温室効果ガス」の説明として、最も適切なものはどれですか。（2019年 千葉県公立入試 類似）
1. 化石燃料の燃焼によって発生し、大気中に熱を蓄えて地球全体の気温を上昇させる二酸化炭素などの物質
  2. オゾン層を破壊し、地表に届く紫外線を増加させるフロンガスなどの物質
  3. 森林火災や砂漠化の原因となる、大気中の酸素濃度を急激に低下させる特定の気体
  4. 工場から排出され、土壌や水質を汚染して人体に深刻な被害を及ぼすメチル水銀などの物質

## 答え合わせ・解説

|     |                                                                   |                                                                                                                                                                                              |
|-----|-------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え 3<br>前者がリデュース、後者がリサイクル                                         | ゴミの発生自体を抑える取り組みはリデュース（Reduce）と呼ばれ、使い捨て製品の使用抑制などがこれに該当します。一方、廃棄物を一度資源に戻してから再び製品化することはリサイクル（Recycle）と呼ばれます。これらに、一度使ったものをそのままの形で繰り返し使うリユース（Reuse）を加えた「3R」は、循環型社会を形成するための重要な指針となっています。           |
| 問2  | 答え 3<br>携帯電話などの小型家電には多くの有用な金属が含まれており、これらを再利用することで資源の有効活用が進められている。 | 日本は多くの鉱物資源を海外からの輸入に頼っていますが、都市鉱山と呼ばれる廃棄物の中には膨大な量の有用金属が眠っています。小型家電リサイクル法などの制度を通じて、携帯電話やパソコンなどを適切に回収・処理することで、金などの高価な金属を再び産業活動に利用する仕組みが整えられています。これは、資源を輸入に頼り続ける「輸入拡大」とは異なる、国内での自律的な資源確保の手段となります。 |
| 問3  | 答え 1<br>先進国の企業による安価な買い叩きが、途上国における児童労働や貧困の固定化を招いていること              | 自由な市場競争の中では、交渉力の強い先進国の企業が極端に安い価格を要求することがあります。その結果、途上国の生産者は生活が成り立たず、児童労働などの劣悪な労働環境を強いられるという構造的問題が生じます。フェアトレードは、こうした不公正な取引を是正し、持続可能な社会を目指すものです。                                                |
| 問4  | 答え 4<br>公害対策基本法の制定や排出規制などの法整備により、大気環境の改善が進んだため                    | 1960年代の高度経済成長期には二酸化硫黄による大気汚染が深刻化し、健康被害や視程の悪化を招きました。しかし、1967年の公害対策基本法の制定や、工場への脱硫装置の設置義務化といった厳しい排出規制が行われた結果、1970年代以降に大気中の汚染物質が減少し、東京都心から遠方の富士山が見える日数が回復・増加しました。                                |
| 問5  | 答え 2<br>リデュース                                                     | 廃棄物をごみとして出す前に、その量自体を減らす「発生抑制」の考え方を指します。3R（リデュース、リユース、リサイクル）の中でも、環境への負荷を減らすために最も優先すべき取り組みとされています。                                                                                             |
| 問6  | 答え 2<br>フェアトレード（公正な貿易）                                            | 開発途上国の生産者は、国際価格の変動や不当に安い賃金によって、懸命に働いても貧困から抜け出せないという課題を抱えることがあります。この仕組みは、消費者が適正な価格で商品を購入し続けることで、生産者の持続的な生活向上と自立を支えることを目的としています。単なる寄付ではなく、対等な貿易の形をとる点が特徴です。                                    |
| 問7  | 答え 4<br>将来の世代の幸福と、現代の生活の質の維持・向上の両立を目指す考え方                         | 持続可能な社会は、1987年の「環境と開発に関する世界委員会」の報告書で提唱された「持続可能な開発（サステナブル・ディベロップメント）」という概念に基づいています。これは、環境保全と経済開発を対立するものとして捉えるのではなく、地球の有限な資源を大切に使いながら、将来にわたってすべての人々が豊かさを享受し続けられる仕組みを作ろうとする国際的な基本理念です。          |
| 問8  | 答え 3<br>製品の製造過程でゴミの発生を抑える「リデュース」                                  | 循環型社会形成推進基本法では、環境への負荷を最小限にするための優先順位が決められています。最も優先されるのはゴミそのものを出不さない「発生抑制（リデュース）」であり、次にそのまま使う「再使用（リユース）」、その次に原材料として使う「再生利用（リサイクル）」と続きます。リサイクルは重要ですが、それよりもまず「ゴミを減らす」ことが最優先とされている点がポイントです。       |
| 問9  | 答え 4<br>フェアトレード（公正取引）                                             | 開発途上国の生産者が経済的に自立するためには、一時的な援助ではなく、生産活動に対する正当な対価が支払われることが不可欠です。この取り組みは、児童労働の防止や環境保護といった社会的な課題解決にも直結しており、持続可能な開発目標（SDGs）を達成するための重要な手段の一つとして位置づけられています。                                         |
| 問10 | 答え 3<br>2030年                                                     | 国際連合で採択されたこの目標は、2016年から2030年までの15年間で達成すべき17の大きな目標と169のターゲットから構成されています。「誰一人取り残さない」という理念のもと、環境保護、経済成長、社会的平等の実現を目指しています。                                                                        |
| 問11 | 答え 3<br>廃棄物の発生抑制（リデュース）を最優先し、次に再使用（リユース）、その次に再生利用（リサイクル）を行う。      | 循環型社会を構築するためには、まずゴミそのものを出不さない「リデュース」が最も重要視されています。次に、一度使ったものをそのままの形で使う「リユース」、そしてどうしても廃棄物となるものを資源として再利用する「リサイクル」という優先順位がこの法律で定められています。単にリサイクルを進めるだけでなく、社会全体で資源の投入量を減らすことが持続可能な社会の鍵となります。       |
| 問12 | 答え 1<br>化石燃料の燃焼によって発生し、大気中に熱を蓄えて地球全体の気温を上昇させる二酸化炭素などの物質           | 石炭や石油といった化石燃料を消費することで発生する二酸化炭素は、赤外線を吸収して大気の温度を上げる性質があります。この「温室効果」を持つガスの濃度が高まることで地球温暖化が進行するため、京都議定書ではその排出削減が大きな課題となりました。                                                                      |